
◎決議案第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（藤井 要君） 日程第5、決議案第2号、町長の危機管理意識に関して改善を求める決議についての件を議題といたします。

決議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

（1番 田中道源君 2番 鈴木茂孝君 登壇）

○1番（田中道源君） それでは壇上より決議案第2号の説明をさせていただきます。

町長の危機管理意識の改善を求める決議について、提出者は鈴木議員と私田中でございます。提出理由を説明させていただきます。

町長の危機管理意識に関して改善を求める決議、本年は昨今からの異常気象や新型コロナウイルスの世界的大流行により町の日頃からの防災意識、危機管理能力が試される年であった。そんな中、9月1日防災の日を実施された職員参集訓練において、安否確認をするための連絡手段を町長自らが導入していなかった。それに対し、全く反省の意を示していない。また庁舎に爆破予告があった際、爆破予告当日、11月10日に行き先も告げず外出し連絡を疎かにした。さらには12月5日の市町対抗駅伝に際し、静岡市が警戒レベル4の状況下において、例年の前夜祭等は中止となり、同行予定者は当日に出発した中で、特別な理由もなく前泊した。以上のような行動は、町長が有事の際に、災害対策本部長として、責任ある立場であることの認識が甘いと考える。今回は、大事に至らなかったものの、役場を混乱させ、職員のみならず町民全体を危険に晒す恐れがあるものと強く憂慮すべきことである。については町長はこれまでの危機管理、防災意識についての認識の甘さを反省し、庁内の危機管理対策の改善を強く求める。

以上です。

○議長（藤井 要君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

○7番（高柳孝博君） まず、3点ほどあるんですが、1点目は、町長が訓練の時に連絡を取る手段が違ってたと、これは、メール、機器で一斉配信みたいな格好で連絡して、参集するということらしいですけれども、この時には、町長は、前日に課長との中で、町長来なくてもいいよ、という話もあったようですが、実際に町長は、参加しなかった訳ではなくて、

その時、参加していきまして、その後、各避難所を巡って、どんな具合か、見に行ったりしているわけです。別に参加していない訳ではなくて、しかも、その後、反省っていいですけど・・・、訓練というのは、最初から100パーセント完璧に動くものではなくて、本当にシミュレーション的な意味もあって、足りないところがあれば見直していく、訓練は検証的な意味もあると思います。そういう意味で、町長がそういう連絡手段が、電話しかできなかったというのは一つの訓練の成果ではないかというふうに思うわけでございます。そして、そのなかで、一つは訓練の効果があったというふうに思う・・・。そのあたりは、いかが、どういうふうに考えているのか・・・。2つ目は、庁舎に爆破予告があった時にいなかったということでございますが、これについては、爆破というのは、これ本当にね、卑劣な手段ですよ。結果的に悪戯で終わったわけですが、こんな悪戯をすることは許される事ではございません。まして業務の制限そのものを受けてるわけです。実際に、庁舎の出入りも制限しましたし、学校等も対応したというように聞いています。そしてこれは警察でも対応しているわけです。これが、本当に爆破があったとしたら、一首長で済むような問題ではないと思います。本当にテロ事件に匹敵するような事ではないかと思います。そういったことに対して、むしろ、その卑劣なことをしたことをやはり我々としては責めていかなければ、これは犯罪ですので。そちらを責めるべきだと思います。その点は、どのように考えますでしょうか。それから最後に、前夜祭・・・、最後のところは、前夜祭がある大会の時に、前夜祭がなくなってしまったから・・・、隣の首長さんは、選手たちと一緒に行くということを選択されたようだけれど・・・、以前、ある首長さんが言っていたのは、私たちは先に行って、選手を迎えるんだというような事を言っていました。今回、どのような判断をされたかは知りませんが、別にそれで、別ルートで車で行ったということで、一つを選択をされたんだと思います。その辺りをどのように考えますか。その3点・・・。

- 1番（田中道源君） 3点の質問にお答えしたいと思います。まず、1つ目の参加していないわけではなく訓練の・・・、携帯電話しかなかった事は訓練の成果ではないかという質問に関してですけれども、今回、提案理由で述べている中で、参加しなかった点は言うておりません。メルポコという連絡手段を今回・・・、その確認の訓練だったのにも関わらずですね、それ自体を導入してなかったことは問題じゃないかということです。私は、これが、入っていない事は大きな問題であると思っていますし、携帯電話だけでよかったというのは、訓練の成果どころか、むしろ落ち度だと、私は、そんなふうに考えておりますので、成果な

んでものではないというのが、答えになるのかなと思います。2番の爆破予告でございますけれども、卑劣な手段を責めるべきだということは、そのとおりだと思います。もちろん、そのとおりでございますけれども、向こうが卑劣な手段をするから、こちらはそれを責めるべきだと言って、命の安全等を守れるとは到底思いません。例えば、台風だから仕方ないとか、言い出したら、何もやりようがないじゃないですか。私が問題視しているのは、災害等があった時に、指揮をするべき立場にある町長が、指揮をするべき所にいなかったってところが、大きな問題だと思っております。ですので、卑劣な手段を責めるべきだは、もちろんそのとおりだと思いますけれども、それではなくて、我々が準備しておかなければいけなかった部分できていなかったという意味では、やはり、これは質問に相当しないんじゃないかなと思っております。そして、3番の先に行って選手を迎えるつもりだという、それについてどう思うかという質問だったかと思うんですが、それに関して言いますと、私が聞いている情報では、町長は選手と同じ宿に泊まっていたそうです。ですので、朝、例えば、いってらっしゃいってというようなことができたんだろうなと思うんですが、そのような事実はなかったと聞いております。いわゆる選手の方からですね、朝、そういうふうになにか声かけとかあったんですかねっていう、話によると、そういった事はなかったと、要は、町長は前日入りして直接・・・、まあ、10時くらいに出発してですね、会場の方に向かったというふうに聞いておりますので、朝ね、いってらっしゃいとか言ってくれていたのであれば、その意味もあったんだろうなと思うんですけども、そんな中で、私の思う特別な理由はなかったんじゃないかなろうかってというのが、この今の答えになるのかなと思います。以上です。

- 7番（高柳孝博君） 今、回答をいただきました。1点目の爆破・・・、先に爆破予告の事もそうですけれど、まず、訓練の事から1つ聞きます。訓練でポコというシステムが、町長に入っていなかった。むしろ、そのシステムが事前にわかっていない、訓練をやる前に、当然それを入れなければならないということであれば、それが全員に入っているかどうかを確認しなければならないですね。そこら辺が・・・、担当がどなたかわかりませんが、どういう仕組みで、その入れてくださいっていう通知が行ったのかわかりませんが、全員入りましたかっていう確認をして、みんなにわたっていると。で、たまたま、町長が漏れていたのかわかりませんが、町長がそれを聞いていて入れなかったのか、それはわかりませんが、むしろ、訓練がある時に訓練をやるのであれば、みんなそれぞれ・・・、まあ、中には、ポコで連絡できなかったのがあると、聞いてます。それを事前に、本当に訓練の中で動ける

ようになっていたかっていうのは、ちょっと、そこら辺もやはり問題であると。やるのであれば、町長の中に入っていないということが事前にわかっていたら、それは、防げた事だと思います。その辺りは、まあ、色々、その仕組みの中が、わかっていけませんので、はっきり言えませんけれど、あらかじめ、それは入っているかどうかを確認されていて、入っていないということだと、これ、ちょっと問題ですけど、そういったこと。それから訓練は100パーセントでなければできないわけではなくて、実際に今回、入っていないということがわかりましたので、それで、その後、入れたわけですね、訓練をやった後に。私はそれでいいと思います。訓練の中でいろんな不備が出てきて、その不備をなくしていく。そこに訓練の一つの・・・、まあ、慣れるっていう訓練もありますけれど、一つは、不備を正す。機器であり、行動であり、そういったものを正すという事も含めていると思います。なんのために訓練をやるかということで、その両方あると思います。今回は、町長がいなくてもやれた、これは非常に危機管理の体制としては、逆に町の体制がよくできていたというふうに思うわけですね。そこで、町長がいなかったためにガタガタになったということになると、それは非常に問題だと思います。今回の訓練では、そういうことがなくて、町長にポコというシステムが入っていなかったっていうことは一つの問題だと思います。その問題をやはり、事前にやっぱり、確認しておけば、1つは訓練も上手くいったのかなと、今後の教訓だと思います。それから、爆破の事ですけど、他の市町でも、それがやられたと思います。広域の中でやっている中で、これ本当に爆破って事になったら、一首長の対応できる問題ではないと思います。これは、本当に・・・、そうしたら、例えば、今年中に爆破するよ、っていったら、首長いなかったら、ずっといるかって事、そうでもないと思います。やはりその爆破の事に対して、しっかり対応できるようにしておく、首長がいなかった場合でも、対応できる。そういう危機管理が必要ではないかというふうに思うわけでございます。いなかったら、そうしたら、365日、どこかでやるよってなったら、ずっといるかって、そうもいきませんので、やはりこれは、爆破っていうのはテロ事件でありますので、私はそう思います。こんな重大なところを一市町だけではなくて、本当に警察が動いて、犯人は誰かっていう・・・、犯罪ですのですね、そういう所ではないかというふうに思います。もちろん、町長がずっといられば一番望ましいですけど、ずっとそこに縛られていて、結果的には悪戯に縛られたと、しかも、町に損害をあたえているわけですね。業務に支障をあたえている。こちらを先に責めないで、我々は向いているところは、町長の・・・、そういうことはできるだけ居てもらい

に・・・、決まったことをやる事自体は、この防災の準備している中で、できるかも知れませんが、これは、じゃあ、テロなのか、悪戯なのかの判断っていうのは、後からわかる事でございます、その時に起きている、その時その時の対応っていうのは、やっぱ、現場のですね、まさに本部長である町長が、指示して、それによって、役場の職員が動いていくっていうことをするしかないんだと思います。その指示する人が、その指示するべき所にいなかったってところは、やはり大きな問題だと思いますし、これ言っていることとしましては、地震はもう、どうしようもないから、町長の責任じゃない。責任じゃないかも知れないけれども、だれかがこの、国に要請を出したりとかっていうのを判断しなきゃいけないわけですよ。この爆破予告の時、4時半っていう予告ありましたけども、それより前にもし・・・、なんて言うんですか・・・、爆破されていても、何にも対応できないっていう事だったと、そういうふうに僕は、危機感を持っています。ですので、ちょっと、横にそれでしたけども、町長の手には負えるものではないから、仕方ないんだっていうのは、ちょっと違うのかなと思います。以上です。

- 2番（鈴木茂孝君）　ちょっと、補足をさせてもらいます。昨日ですね、ちょっと、他の方から、もし、その火事なり、そういうものがあつた時に、どんな事を連絡するんだというような手帳を見せてもらいましたら、その一人の方が、何人も連絡しなければいけないというような仕組みになっています。その中で、メルポコが入っていれば、かなりの人数に直接いくわけです。わざわざ、町長が入っていないから、町長に1回電話しなければいけないという一手間が増えます。災害の時には、そのような事もしてられない。一刻も、やらなければいけないことはたくさんあります。そのなかで、町長にいちいち連絡しなくちゃいけない。そして、今回の場合は、不在だったと、出なかったということで、またどうしようということで、課長たちが集まって、決議をするような話をしなくちゃいけない。そういう無駄な時間を減らすためにも、しっかり、入ってもらってっていうようなことを前日に田中議員がお話して、そのなかで、次の日に入れましたかっていうふうに、再び問うたところ、入れてなかったですよ。じゃあ、入れますねってことで入れたわけですけども、やはり、本当に反省しているのであれば、言われたときにすぐ入れますっていうような事が、やっぱり、やるべきではないかと、いうふうに思います。その点で、やはり反省していないということがあるんじゃないかなというふうに思います。それから、爆破予告の件ですけども、やはり先ほど言われたように、犯罪は卑劣なものですが、例えば、卑劣な犯人ですので、16時半とい

うふうに予告をしておいて、午前中なり、13時に爆破するかもしれません。そのなかで、町長は確か、14時から16時まで、いらっしゃらなかったということで、そして、その先が旧依田邸にいらっしゃったということなんですけども、それが、はたして、その緊急時に、めったにないことです。この緊急というのは。この中で、そこに行くべきであったのか。ということが、その行くべき用事であったのか。例えば、犯人がそこにいるかもしれないとか。それでも、本人は行かなくてもいいかもしれないと思いますけれども、そのことしっかり、本人は反省していただかないと、例えばこれで本当に爆破があった場合に、町長はやり玉にあげられますよ。これは、確実に・・・。居なかったということで・・・。これは、もしかしたら、また次にあるかも知れない。その時に反省しなければ、また、同じ事をやるかもしれない。そうになったら、本当に町長生命終わりだと思いますし、町民の安心安全が守れないというふうになります。その辺は、重々反省していただきたいというふうに思っております。それから、市町駅伝ですか・・・、それも昨日、私、ちょっと一般質問でやりましたが、ホテルで仕事していたというふうなお話で、ホテルで仕事をするために、レベル4の・・・、前日に川勝知事が静岡市と伊東市には、気をつけるようにと、往来、気をつけるようにという話ではありましたが、まったく、そのほうには、気にせずに、向かったわけです。そして、その、ホテルで仕事をしていたということですが、それは、なぜその静岡市のホテルで仕事をしなければいけなかったという理由は、示されていませんけれども、その必要は、私はないんじゃないかというふうに思いますし、先ほどおっしゃられたとおり、朝ですね、頑張っ行ってこいよというのものなかったということですので、まったく行った意味がないと・・・、当日行かれた議長と教育長と同じ行動をされても、よかったんじゃないかなというふうに思いますし、やはり、感染の危険のある静岡市に行ったということは、もし、感染すれば、副町長がいない松崎町では大混乱になります。そこまで、やはり、想像力を働かせて、やってほしかったなというふうに思っております。以上です。

- 7番（高柳孝博君） 訓練の関係です。訓練は、事前に町長は別行動をとるというような話をしていたと聞いています。これは、一方で、メルポコでやるという練習・・・、それも当然ですけど、首長として、別の行動をとったというふうに聞いています。そのあたりは、別に行動をとるべきではなくて、メルポコをやっている以上は、ずっとやるべきだというふうにとるのか、そこは、ちょっと、私は、訓練のあり方が、少し、あったのかなと思います。・・・。それから、爆破予告の関係ですが、爆破というのは突然来るかも知れないわけで

すね。そういった時に、本部長がいないと対応できないようでは困るわけで、そういった時に、本部長がいないときに、対応できるようにしておかなければいけない。普段からしておかなければならない。その仕組みがないとしたら、今度のものは、作らなければいけないと、こういうふうに私は思います。それから、その3つ目の前夜祭がなくなった件については、他の首長も来たと聞いています。他の首長が前に来たというのはやはり、なんか、特殊な理由があるというふうに考えられるんですが、その関係をお願いします。

○議長（藤井 要君） 同じような、議論が続いておりますので、簡潔にお願いします。

○1番（田中道源君） 訓練の参加した、していないは、今回、この際、問題にしておりません。何度も言いますが、参集訓練の連絡手段であった・・・、その連絡手段を入れていなかったことに対して反省の色がないというところに問題意識を持っております。2番目の爆破予告の件に関してですけれども、いなくても機能するは、もちろんそのとおりでございますけれども、これは、訓練ではなくてですね、結果として悪戯だったで、今終わっておりますけれども、これは訓練ではなくて本番だと思えます。その一番指揮をしなきゃいけない時にいなかったのは、やっぱり、やはり問題だろうなと思っております。3つ目の他の首長は行っていたと、私の確認している限りでは、確かに3市町ですね、首長行ったそうです。そのうちの一つは、私も一般質問の中で言いました。西伊豆町の町長とあとは、掛川だったかな・・・。とにかく、そちらがどういう理由で行ったのかは、わかりませんが、そして、松崎の・・・、当町の町長なんですが・・・、他にいっぱい市町ありますけれども、行ったのは3市町だそうです。ですので、当たり前とは思いません。皆さんほとんどが、自粛されたというのが、実際のところだろうなというふうに思っております。以上です。

○5番（深澤 守君） 先ほど、高柳議員の方から、質問があったと思うんですけど、町長は常々・・・、就任当初から安心安全なまちづくりを、防災を、ということを揚げております。就任当初、防災監を異動しないで固定して防災をしっかりやるということを言っております。今も変わらないと思います。その中で、この前の9月1日の防災の日を迎えたわけですが、高柳議員は完璧でなくてもいいと、いうふうにおっしゃいましたが、これ、連絡網等は防災の基本の「き」でありまして、このことができないという・・・。ましてやメールを入れていない、連絡がつかない、色々な手段を使っても町長に連絡がとれない、っていうこと自体が、不測の事態だと思います。ましてや、高柳議員は、NTTに勤めていらっっしゃいましたが、防災の時に電話が通じない事はわかっているはずですよ。本当に、危機の時に電話が繋がらな

い状態を作っていること自体が問題ではないかと思います。このメルポコにしても、危機の問題等、答弁でおっしゃっていますが、これはメールです。ガラケーでも使えるはずですが、それを承知しながら、携帯電話の連絡しか取らなかった、町長に連絡が取れない状態を作っていたのは、これ問題ではないかというふうに思っています。それから、テロについてもですね。これ、卑劣な行為をしたと、これ批判しても町長が言っても仕方のない話であって・・・。

○議長（藤井 要君） 深澤議員に申し上げます。これですね、高柳議員にもいえる事ですけども、町長に対する危機管理意識の問題ですので、それを踏まえた上で発言してください。

○5番（深澤 守君） テロであるならば、これ、しっかりと、テロ対策をとって何かあったら、町長が即判断しなきゃならない状態だったと思います。ましてや、町長がいない時に重大な決断をしなきゃならないことに対して、職員が判断する・・・って事になれば、職員は不安になります。そういう時に、しっかりと町長が、自分が責任をもって決断をするから、即決する状態を作っていかなければ、これ危機管理にはならないはずですが。そのための最高責任者、町長がいるはずですが。僕はそう思います。その点について、提案者いかがでしょうか

○1番（田中道源君） おっしゃるとおりだと思います。指揮する・・・、要は判断する人がいない、そういう組織っていうのは、本当にもろいと思いますので、不測の自体だからこそ、その場、その場の対応ってのが必要になってきますから、そこにはやはり、判断する人が必要だと私は思います。それが、安心安全なことなんだと思います。以上です。

○議長（藤井 要君） 他に質疑はございませんか。

○6番（渡辺文彦君） 今回、事例として3つあがっているわけですけども、3ついくとちょっと時間がかかっていくから、一つずつをとりあえずお話をさせていただきたいと思うんですけども、メルポコという機器があるということに対して、町長が導入していないということを責められているわけですけども、機能としては大変優れたものだから、僕は持っていたらそれにこしたことはないと思っています。ただ、今回は訓練です。実際の時に、その機器を、携帯電話を自分の手元にあるかどうかはわかりません。おそらく・・・。その機器に電源が入っていないかもしれません。だから、それを、持っていれば、全て物事は解決するって考え方は、まず、いったん置いておいた方が良いかと思います。機器としては機能する事は僕は認めます。でもそれに、全幅の信頼を置いて、それを持っていないことが全て批判さ

れる程、大きな、重大な問題であるとは、僕は思っていません。むしろ、多様な通信手段、連絡手段を持つことが、基本的に一番重要な危機対応だと思っています。その点について、どういふふうに考えますか。

○議長（藤井 要君） 先ほど来から、高柳議員からも同じような質問がされてますので簡潔に答えてください。

○1番（田中道源君） 準備をした上で出来ないってのは、もちろんありえることだなと思いますが、そもそもの用意する段階の導入すらしていない、そこが問題だと言っております。もちろんそれが入ってるから全てではありませんけれども、その、備えすらしていない状態で、それでもいいじゃないかっていうのは当たらないんじゃないかと思いますね。以上です。

○6番（渡辺文彦君） このメルポコに関して、総務課長、防災担当の総務課長にお伺いしたところ、職員の中にも導入されていない方が、事情によっていると、その方には、なるだけ導入してもらおうような形で、または他の連絡方法で対応しているというような話を伺っています。だから、そういうことであるならば、それは町長の危機管理、町長が今、町の行政を担っているわけですから、ましてや前の町長の時からも行っているのであれば、そのシステムを導入しようということでもって、その防災会議の中でもって、全員がそれを共有する状況が生まれてくるというのがおそらく防災の基本だったと思うわけです。そういう意味で、そこがなされていないってことは、僕は、やっぱり責められるべきだとは思いますが。そういう意味で、今回町長がもっていなかったということに対しては、やっぱりそういう、行政っていうか、危機管理における全体のシステムの中に、やっぱり問題があったということで、指摘はできるかと思うんですけども、それをね、後から指摘をして、じゃあ、しゃあない入れようかって言ったことが、全く反省していないっていうような、表現になるのかどうか、全くとか、十分とか、個人的な判断で、人によって評価が違うもんで、そういう文面で、この表現をするのは僕はいかがなものかと思うわけですけども、いかがでしょうか。

○議長（藤井 要君） 申し上げます。先ほどの質問者があった・・・、同じような質問を避けて質問をしてください。

○6番（渡辺文彦君） 議長、ちょっと失礼ですけども、この問題は同じ質問にならざるをえません。どういふふうな角度で質問したらいいのか、事例を示していただきたいと思います。

○議長（藤井 要君） 私が、ここで答えるべきではないと思いますけれども・・・。

(○8番(土屋清武君)「議長・・・」)

○議長(藤井 要君) ちょっと待ってください。先に渡辺議員の質問をどちらからが・・・、
答えますか。

○1番(田中道源君) 今ちょっと、間が空いてしまったので、アレですけども、そんなに・・・、十分な・・・、反省があるのか、まったく反省していないのかってところを、今聞か
れているとするのであれば、私が、9月の議会で言ったこと、また、今回の一般質問をした
中で、言ったことの中に・・・、もう、電話連絡ができる状態にいるんだから、それで良いじ
ゃないか。しかも、いろんな手段のあり方っていうのがあっていいじゃないかというような
形で、入れてなかったことに対して、一つでも申し訳なかったというか・・・、これは、まず
かったなっていうような、一言というか、そういうものが一切なかったんですね。一般質問
の時も言いましたけども、そういう一言、反省の言葉が欲しかったよっていうの・・・、たし
か言ったかと思うんですけども、私の知りうる限り、一切なかったもんですから、これ、十
分とか、全くとかの表現の仕方がどうなのかはさておき、反省の色は、私は感じませんでした。
なのでそれが全くだろうが、不十分、十分、どのくらいの割合とかは、分かりませんけ
ども、やはり真摯に、できていなかったことをできてませんでしたって認めることが大事だ
と僕は思うんです。次に進むにあたってもですね。そこを、こういうやり方もあるから良い
んだ、みたいな感じで言っていたことに、私は何の誠実さも感じませんでした。以上です。

○議長(藤井 要君) 申し上げます。その質疑がですね、謝ったとか、謝らなかったとか、
そういう問題ではなくて、もう何年も前からメルポコが入っていなかった。これに対してど
のように考えているか。その町長の危機管理意識を問うているんだと思います。謝ったから、
良いだろう。謝らなかったから、ダメ、ではない。そのような質疑ではなく、もっと深く危
機管理に対する意識、それに対して、答弁、質問、お願いしたいと思います。

○8番(土屋清武君) 一応ですね、この、公務員であって、そしてまた、町長は、町民の生
命財産を守らなきゃならない訳です。一応、それくらいの責任を持つ以上は、町長になっ
たら、いつ何時、どんなことがあっても、自分は、そういうことが連絡があればすぐ飛んでい
けるということは、これ、自覚ですよ。私だって、消防係やったことがあります。このとき
なんかは、連絡網なんかは・・・、当時は電話ですけども、そのあと、電話の代わりに、通知
のあるものなんかあったわけですけども、そういう事ですね、いつどんな時にでも正直
言って、24時間中ですよ、担当になれば。そんなくらいの自覚がなくて、公務員ですよ。公務

員であるからこそ、責任が被さってくるわけです。私の時、牛原山が火災になった。この時だって、やっぱり、それなりの事をしなきゃならない。町長が来て、じゃあ、何をこうして、何分団をもう少し出そう、じゃあ、何分団を出そうと、そういうようなことが、全部伺いを立てなければならぬわけです。松崎の町民、町内の船が沈没したこともありますけれど、そういう時の、いざという時に、すぐ連絡をつけられるような事をしてなきゃなんないわけです。今回の町長の関係につきましては、電話連絡をその後ですね、メルポコの他に電話連絡をかけていても、それも通じなかった。その前からもう、課長連中集まって、町長のところに連絡つけられないということで、解散したということをお伺いしています。そんな公務員はね、怒られますよ。町民の人から。以上です。

○議長（藤井 要君） 他に質疑はございますか。

○3番（小林克己君） 自分は防災は組織で行われていくって考えております。そこで、町長は、爆破の時にも、ちゃんと報告をして外出をしたと、一般質問の時でしたっけ・・・、おっしゃられていましたね。なおかつ、市町対抗駅伝、この時にも公共の交通機関とか何かを使わずにちゃんとコロナ対策っていう形で、多分、運転手をつけて、多分、静岡の方に行かれたと自分は思っております。その点とか、他の市町にも確認をされた上に前泊をされていることと思います。その点、色々な事を考えますと、防災を組織でしていくってことに関しては、町長は、どこが落ち度があつたのかなって、自分は感じております。

○1番（田中道源君） 組織、ものすごい大事だと思っております、その組織の一番トップにいるのが町長です。もう、これまであげてきたことが、全部、落ち度だと僕は思いますけれども、それが落ち度でないという方を、むしろ、私は、聞きたいですね。私は、完全に落ち度だと思っております。以上です。

○6番（渡辺文彦君） 2点目の爆破の方の話にいきたいと思っております。このあいだ、田中議員が一般質問で、この日どういう対応をされたかっていうことでもって町長から詳しい経緯をお伺いしたところによりますと、町長は警察にも、消防にもちゃんと連絡をとり、また、担当職員にも指示を出し、庁内もみんな見回ったということをお話されていたと思っております。とりあえず、事前に、できるべき対応はされていたと、私は考えております。ただ、ここで田中議員が指摘する一番大きな問題は、爆破する時間が4時半って出ているのにその時間になかったという事が一番大きな問題なんだろうと思っておりますけれども、僕の個人的な意見ですけども、これは町内にいて、連絡が取れる状態であれば、庁舎の中に留まる理由は、なくても

いいんじゃないかなというのが僕の考えです。というのは、これは極論の話ですけれども、仮に庁舎の中にいて町長がもし被害に遭われたらどうなるんですかって話もあるわけですよ。だから、極端な話ですよ、これは。だからいなくてもいいってことではないですよ。ただ、そういうケースも考えられるから、とりあえず、連絡がつくのであるならば、別に庁舎の中に留まる理由もないのかなってというのが、僕の考え方です。とりあえず、連絡がつくところにいたと・・・、って僕は、どこにいたか知らないけれど、鈴木議員の発言ですと、旧依田邸に***ことですから、もし、そこで何かが起これば、旧依田邸からここまで、10分もあれば来て、指揮がとれるわけですから、僕はその辺に関しては、ある程度の準備をされて、出かけているんだから、そんなに問題なかったなあとは僕は考えているわけですが、そういう意味では、今、小林議員が、防災っていうのは組織でやるものじゃないかということで、ある程度、そういう意味では総務課長を中心に危機対応の準備はされていたと思うわけですね。ですから、その面では、僕はそんなに責められるほど大きな落ち度であったようには、認識はしてないんですけれども、その辺いかがでしょうかね。

○2番（鈴木茂孝君） 当日ですね、14時から16時まで、どちらか、いらっしゃって・・・、依田邸にいらっしゃって、まあ、帰ってきたと、いうふうに聞いております。その後ですね、やっぱり庁内を動き回っていて、防災の担当の方から、お願いだからすぐわかるところにいてほしい、町長室にいてほしいっていうような事を、言ったというふうに聞いております。ですので、町のどこかにいれば良いという問題ではなくて、やはり、しかるべき位置に、一刻も早く、連絡がつく位置にいてもらうというのが、重要じゃないかなというふうに思います。以上です。

○6番（渡辺文彦君） こういう防災とか危機管理に関して非常に難しい、特に、この戦争みたいな状況で、指揮官がどこにいるかということは、非常に大きな問題になるんだろうけれども、ただ、防災の担当の方が、町長が見えるところに居てほしいという気持ち、僕それはよくわかるですよ。でも、いつも、そういう・・・、この今回は、予告されていたからいいわけですが、予告がない場合、仮に極端な話ね、この一週間のうちのどこかで爆破するみたいな話があった時に、町長はずっと、庁舎の中に留まっていなければいけないのかって話になるわけですよ。その辺に対してね。今回はたまたま時間が指定されていたから、この時間にいるのが、僕は正当かとは思いますが。そうすべきだったと思います。でも、それ、***、とりあえず、そうであると思うんだけど、それを拡大解釈したときにね、そこまで

責められる程、大きな問題だったのかと、要するに、防災担当の職員が、不安を感じたって事に対して、やっぱり、そういう意味では、心が足りなかったと僕は思うのだけでも、やっぱり、そういう意味での、その時の防災の・・・、その時の対応じゃなくて、事前の防災に対する危機の組織のあり方がやっぱり問題なんだろうと、僕は思います。それは・・・。

○1番（田中道源君） 本当に、突然のですね、テロであったりとか、地震であったり、その時にいないということは、ありえる事だと思います。それを、責めることはできないと思います。しかし、今回、ご丁寧にですね、予告をされているわけです。これが悪戯かどうか、どういう対応をとったんですか。どういう認識でしたんですか。っていう話に対しては、やっぱり、ただの悪戯ではなく、対応すべき問題だと、認識しているっていう当局の答えでした。一般質問の中でですね。であるならばですよ、あえてこの直前のタイミングで、どうしても外に行かなきゃならなかった理由ってなんなのかってことです。これは、市町対抗駅伝の事もそうですけども、何故、このタイミングでわざわざそこに行ってなければいけないのかって事。平時だったら良いですよ。それは、つかまらない事もあります。でも、わざわざこの時間にここでやりますって言っているものを、一応、予告してくれているものに対してですね・・・、あの、くれているって言い方、ちょっと悪いですけども、わかっているのに、その直前に席を外す、しかも、いてほしいよって言われているのも振り切って行く。非難されるべきだと思いますね。以上です。

○議長（藤井 要君） 渡辺君、最後の質問ということで。

○6番（渡辺文彦君）僕は、町長に直接確認したわけじゃないし、職員にも確認していないから、なんとも言えないんだけども、町長が職員から、いてくださいと言われて、それを出ていったとすれば、当然、それは非難にあたいます。それは・・・。その辺は確認していないもんで、僕の感覚で言っていますもんで、なんとも、言えないんですけども。ただ、この決議書・・・、この文面は、連絡を疎かにしたっていうように出ているわけですね、書面上は。連絡は、町長はとれる状態になっているとおっしゃっていました。疎かではなかったと僕は思うわけですよ。そういう意味では、この文面もちょっと、こう、飛躍した表現かなっていうふうに思っております。最後の、駅伝で静岡に出られたという話ですけど、確かに一般的な常識っていうか、一般的な感覚から考えれば、危険地域にわざわざ行くことではないよねっていうのが、おそらく、通常感覚かと思えます。で、そこに行くのが不要不急であるかどうかは、個人の判断であって、誰もそれは、おまえのその行動は不要だよとか

っていう、決めつけは基本的には、できない問題だろうと思います。そういう意味で町長が、それを、自分にとっては必要だと判断されて出かけたならば、それは別に不要不急であるとかっていうふうに我々は責められないと思います。ただ、町長が行ってですね、静岡に、先に行って、どっかで飲み食いして、感染して帰ってきたとなれば、それは大きな非難を受けるでしょう。おそらく・・・でも、町長自身は、その辺は、ちょっと町長にお伺いしたら僕はホテルに行って、部屋に閉じこもって、自分の仕事を、どうしても、1人でやりたい仕事があったから、そこでずっと仕事をしていたんだとおっしゃってありました。ということは、町長はちゃんと、その辺はリスク管理を自分でされていたと僕は認識しているわけですが、その辺いかがでしょう。

○議長（藤井 要君） 色々と質疑がされておりますけれども、危機管理の問題から少し外れているような気もします。そして、最後に賛成反対討論もございますので、この辺で、質疑を打ち切りたいと思いますけれどもいかがでしょうか・・・。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしという声が多数であります。よって、この辺で質疑を終結したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○6番（渡辺文彦君） 僕は、この決議に対して反対いたします。その反対の理由は、町長の危機管理が甘いという事に対して、議会がこういう形でもって、議決を出すって事に対して反対します。議会から、注意みたいな形でもって、議長注意みたいな形でもって出されるならば、僕は一向に反対しません。ただ議場でもって、こういう形態でもって、町長に危機管理をもっとしっかりしてくださいという要望を出すことに対しては、反対いたします。基本的に町長は完全に我々が、議会が議決して出すほど、危機意識とか、防災管理意識を失っているとは、僕は判断しません。そこそこの判断能力を持っていると僕は認識しています。ですから、議長注意くらいの形態でしたら、僕は賛成しますけれども、議決するという形でしたら、僕は反対いたしたいと思います。

○議長（藤井 要君） 次に本案に対する賛成討論の発言を許します。

○5番(深澤 守君) 私は、この決議案に対して賛成いたします。先ほど来、質問の中でこの案件については重要ではないという。ですから、議会で、質問等する事については、これおかしいのではないのかという意見もあります。これは重要な問題であると思います。これを疎かにすれば、松崎町の防災、ましてや町民の生命財産を守ることを責務とする町長の責務は確実に果たせないはずです。そして、先ほど来、この話を町議会が議決するということがおかしいのではないのかという意見がありました。これ、先ほども言いましたように、町長は防災の総責任者でありまして、町長の責任・自覚がなければ、松崎の防災は成り立ちません。町民の命を守ることもしないはず。その、町民と町民の財産と命を守るために、議会がしっかりと、検証して町長のあり方を問わなければ町議会の役目は果たせないと思います。ですから、今、この議会で、この決議案を出すことを私は町議会の責務だと思っています。以上の事を考えまして、私はこの決議案に対して賛成いたします。

○議長(藤井 要君) 次に、反対討論の発言を許します。

○7番(高柳孝博君) 私は本案に反対でございます。というのは、危機管理というのはね、たくさんあればあるほど、それは良いと思います。今回のところで、議員さんがまだ不足だよというところがあれば、それは、やはり今後も直していかなければいけないことだと思いますし、特に、爆破の事に関して、穿った見方をすると、町長をここに縛りつけて、どういう対応をするか、場合によっては議会でもそれをもむと、それも、なんか狙っているというようなことも考えられないわけではない・・・。

(○5番(深澤 守君) 「どういうことですか。」)

○7番(高柳孝博君) いや、これ一つの考え方、私の考え・・・、それは考え。本当に、犯人が、どういう目的を持ってやったのか、私は穿った見方をすると、そういう見方もできると思いますよ。で、確かに、問題は大きいです。だけど、そのことで、対応が落ちているようにも、思いません。まあ、それこそ、これでもめて、町長どうのこうのって・・・、それこそ、犯人の狙った所かもしれませんし、私は、そこは、やっぱり冷静になって、組織を直す。もし、欠如しているのならば、そうですけれども、特に今回、訓練にしても、組織の中で、動くことができたということは、やはりある程度、危機管理というのは、できているんじゃないかと。それは、これ以上、たくさんあるかもしれません。そこを出すのが訓練であり、今後の反省として、町長の中にも、反省すべきは、反省していただきたいと。しかし、今回、そこで、完全にこれは全然ダメだから、議決してというふうには考えません。従って、反対

いたします。

○議長（藤井 要君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（藤井 要君） 発言なし。次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

○3番（小林克己君） 私も、渡辺議員と同じような考えを持っております。この防災に対して、危機管理に対して、町長が全く欠如しているとは、自分は感じておりません。一応、爆破の時にも報告をしているとか・・・、一般質問の時にも言うておりましたし、市町駅伝に関しても公共交通を使ったわけでもなく、他の市町とかの市町の長にも、連絡確認をされております。その点から関しても、危機管理の意識が弱いという感じは、私は感じておりません。そのようなことで、この決議をすることは望ましくないと思っております。以上です。

○議長（藤井 要君） これをもって討論を終了します。

これより、決議案第2号、町長の危機管理意識に関して改善を求める決議についての件を挙手により採決します。

本決議案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

挙手多数であります。

よって、本決議案は、原案のとおり可決されました。
